

2016.1.1

Vol. 82

ELV  
Newsletter

jaera  
Japan ELV  
Recycler's Association

明けましておめでとうございます。関係機関・団体の皆様より新年のご挨拶をいただきました。



経済産業省 製造産業局 自動車課  
自動車リサイクル室長 保坂 明 様

平成28年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

新車販売の低迷や中古車輸出の増加等による使用済自動車の排出台数の減少、金属市況の低迷等、自動車リサイクルの事業環境は厳しいものがありますが、自動車リサイクル制度は環境変化にも適切に対応し、安定的に持続することが求められています。

政府は昨年の産構審・中環審合同会議の自動車リサイクル制度高度化等の提言を踏まえ、本年は自動車リサイクル部品の利用拡大策等の検討を進めてまいります。関係者の皆様におかれては、一層のご理解と一致団結したご協力をお願い致します。

日本ELVリサイクル機構会員各位の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



環境省 廃棄物・リサイクル対策部  
リサイクル推進室長 田中 良典 様

平成28年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日本ELVリサイクル機構の皆様におかれましては、平素より自動車リサイクルの推進に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

昨年取りまとめられました自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書では、関係者が連携してリサイクルプロセスを最適化する取組や、講習制度等を活用した優良事業者の差異化の取組の必要性等が指摘されたところです。自動車リサイクル制度の更なる進展に向けて、日本ELVリサイクル機構の皆様の一層の御協力に期待する次第です。

末筆ながら、本年の皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人 自動車リサイクル促進センター  
専務理事 宮林 克行 様

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃から弊財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、弊財団自動車リサイクル促進センターは本年、貢献拡大、質の向上、効率化、安定稼働を4本柱として活動を進めてまいります。

特に昨秋の合同審議会にて情報発信・共有の新たな取組等、中心的主体的に取り組むテーマを多数頂き、それぞれ貴機構様をはじめ関係諸団体の皆様のご協力を仰ぎながら精力的に取り組む所存です。

本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い致します。



一般社団法人 自動車再資源化協力機構  
代表理事 阿部 知和 様

新年明けましておめでとうございます。

平素よりフロン類・エアバッグ類の適正処理へのご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。また、リコール対象エアバッグに対する多大なご尽力に重ねて御礼申し上げます。

さて、昨年は「3Rの推進と質の高いリサイクル」の提言が合同審議会にて行われた節目の年であったと考えます。当機構としても「より安定的かつ効率的な自動車リサイクル制度への発展」をテーマに、自動車リサイクル産業の健全かつ持続的な発展と、皆さまの安全かつ円滑な適正処理の推進に努めてまいります。

最後に、日本ELVリサイクル機構の益々のご発展ならびに会員の皆さまのさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。





ELV機構代表理事及び副代表理事より  
新年のご挨拶をさせていただきます。



## ELV機構の更なる進化へ

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構  
代表理事 河村 二四夫

新年おめでとうございます。ELV機構会員の皆様には、厳しい環境の中、ELV機構へのご協力を厚く御礼申し上げます。

ELV機構は、未来に向かって取り組んでいます。今、業界は隣国の経済減速と鉄鋼市況の悪化で氷河期です。一方、競争力の強い輸出産業は好調です。経済環境の変化によって、業界の市場縮小化が進んでいるため、過当競争の改善が必要と考えます。このような状況下で、ELV機構としては、業界力を向上させて「一枚岩で強靱な組織作り」を進めることが最優先の課題です。そのためには、「財務力・組織力・政治力」の三強化が必要であり、会員事業者の設備規模に応じた「賦課金制度」の検討や業界窓口としての自動車関連団体との関係強化などを行う予定です。具体的な活動内容としては、以下の5つを考えています。

1. リサイクル部品普及拡大のための経済産業省受託事業「JIS開発事業」の推進。
2. 「自動車リサイクル士制度」や国内資源循環を目的とした「共同出荷事業」など、これまでの取り組みの継続・推進。
3. 自動車リサイクルの高度化やELV機構の事業支援などに向けた日本自動車リサイクル研究所の本格始動。
4. 日本自動車工業会・自動車リサイクル促進センター・自動車再資源化協力機構・ELV機構といった自動車リサイクル関係4法人の交流強化。
5. 国の海外調査事業（※）への協力による会員事業者の海外進出支援、といった次世代に向けた事業の推進。  
（※自動車リサイクルの国際展開を目的とした経済産業省の公募事業）

本年もELV機構会員の皆様方には、自動車リサイクル業界の発展・進化を念頭に、一層のご協力とご支援をお願いし、年頭の挨拶とします。

### 編集・発行責任者

日本ELVリサイクル機構  
広報部会 部会長 永田 則男

### お問い合わせ先

日本ELVリサイクル機構 事務局  
〒105-0004  
東京都港区新橋3丁目2-2

◆メール jaera-homepage@elv.or.jp  
◆電話 03-3519-5181  
◆FAX 03-3597-5171  
◆HP http://www.elv.or.jp/

## 目次

新年のご挨拶 ～ 関係機関・団体より～	..... 1
巻頭言	..... 2
新年のご挨拶 ～ 正副代表理事より～	..... 2-3
鉄スクラップ最新情報	..... 4
行事予定	..... 5
お知らせ	..... 5
編集後記	..... 5

## 巻頭言

冬本番。早く春になってほしいと願うのは私だけではないだろう。春になると新社会人をあちらこちらで見かけるに違いない。彼らは、皆優れた能力を持っていて、「したいこと」「得意なこと」をさせると、能力あるいはそれ以上の成果を上げると思う。しかし現実の仕事は「したくないこと」「不得意なこと」の連続で、それが「世の中で仕事をする事」だと思ふ。ぜひ若い人達には与えられた仕事に対しては「したい仕事」「得意な仕事」と言えるような社会人になって欲しいものだ。かく言う私達も今までのように「やりたいこと」「得意で知ってる仕事」ばかりやっていたのでは今の難局は乗り切れないと思ふ。ありきたりだが今年も「チャレンジ」の一言だろう。

(広報部会 副部会長 田村 幸男)

## 年頭所感 2016

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構  
副代表理事 長谷川 利彦

ELV機構会員の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年来、資源価格の低迷に伴い、解体車の買入れ価格には皆様大変ご苦労されていると推察されます。また、ここ2年は資源価格の回復が難しいとされ、益々我々自り法に関わる業界に暗雲がかかっています。

皆様、解体車両から少しでも付加価値の上がる対応を成されているものと考えておりますが、ELV機構の中でも関係方面と様々な協議などを行っています。未だ、即効性のある回答は得られていませんが、今後も粘り強く対応いたします。会員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

今年もよろしく申し上げます。

## 新年おめでとうございます

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構  
副代表理事 吉川 日男

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、原材料市況の急落によって、多くの自動車リサイクル業者にとって逆境の風が吹き荒れた後半1年だったと思います。しかし、我々にとって、金属市況は重要な因子だと思われておりますが、ここに依存しない産業構造を築くことが過去の実績から解明されていることです。この法則を実践すべきことが、今期の河村体制だと思えます。あらゆる業界活動を統一して業界の利害を一つに集約すべきことが、我々の将来の世代に残すべき仕事だと思えます。自動車リサイクル士制度の普及と自動車リサイクルパーツの表示方法の統一は我々の次世代に対する責務であります。今期の自動車リサイクル研究所の創設は、重要なターニングポイントだと思えます。皆様のご理解を期待しております。

## 新年を迎えて

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構  
副代表理事 酒井 康雄

皆様、あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって、健やかで明るい年でありますよう、お祈り申し上げます。

さて、昨年来緊急事態の経営環境が続く私達の業界ですが、世の中を振り返ってみますと、VWの偽装、東芝の粉飾、旭化成建材の不正と、立て続けに消費者の信頼を裏切る事件が起きました。それぞれに原因はあると思いますが、厳しい競争の中で超えてはならない道德のラインを超えてしまった、ある意味プライドを捨ててしまったという結果ではなかったでしょうか。

このことを他山の石とし、頑張りどころであるからこそ同じような事にならぬよう、皆で知恵を出し合い、協力してこの難局を乗り越えていきましょう。



皆様、旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。  
2016年もELVニュースレターをお楽しみいただければ幸いです。



# 鉄スクラップ最新情報

## 2016年の鉄スクラップ業界の見通し

[ 提供 / 日刊市況通信社 ]

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



2016年は、国内の鉄鋼需要は消費税増税前の住宅や自動車などの駆け込み需要が考えられるほか、東京オリンピックにむけた再開の始動などで持ち直しが期待されている。しかし、2015年の10月末の段階では建築着工床面積が前年同月比でマイナス続きとなっていることなどから、2016年の前半は国内の鋼材需要の拡大が期待できない状態にある。また、海外を見ると、中国産の安価な鋼材および半製品の世界各地への流入が依然として大きな影響を与えている。また、日本の最大のスクラップ輸出先・韓国は、中国材の流入に加えて経済の不振などから粗鋼生産量が伸びておらず、スクラップ輸入量がこれまでに比べると漸減傾向にある。さらに鉄鉱石などの原料相場も数年来の安値が続いている。これらを勘案すると、2016年の鉄スクラップ市況は2015年の終盤の価格帯からそれほど値上がりする局面は訪れず、大勢は1万円台の水準での推移となりそうだ。

日本鉄鋼連盟は「2016年度の鉄鋼需要の動向について」を発表した。これによると、2016年の鉄鋼需要は、「公共投資が漸減していくとみられるものの、消費税増税前の駆け込み需要に伴う住宅投資や自動車、家電販売の増加が見込まれるほか、前年に停滞した非居住建築も、設備投資の拡大やオリンピック案件をはじめとする都市開発等の始動から持ち直しが期待され、全体で内需は増加するとみられる」と予測している。また、海外鉄鋼市場については、「新興国の景気停滞が続くなか、中国の輸出増による世界的な需給緩和、通商問題の頻発が大きく影を落としている。鉄鋼輸出は、2015年央以降の低い水準が継続し、2016年度は前年度を下回ると想定される。輸入も、アジア鉄鋼市場の需給緩和から、夏以降、再び水準が上昇しており、先行きも高い水準が継続するとみられる」と予測している。

こうした事情を受けて2016年度の粗鋼生産は、「前年度並みとみられるが、外需の下振れリスクに留意が必要な状況」という見通しだ。

これらの状況を考えると、製鋼原料の鉄スクラップの国内需要は、2016年の前半は伸びず、後半に多少回復しても2015年並みとなる確率が高い。中国から大量の鋼材・半製品が輸出されている状況に変化がない限り、世界の鉄鋼需給および鉄スクラップの需給状況は2015年と同様のままで推移すると見られる。日本においても、国内電炉業界の「需要見合い生産の徹底」と海外からの引き合いの減少、また、国際相場との比較などから鉄スクラップ相場は低位のまま推移する線が濃厚となりそうだ。2015年末にかけては相場に若干の反発が見られたが、2016年に入って一気に急騰することは考えにくく、1～6月は1万3000～1万5000円(1ト当たりH2・炉前価格)前後を目安に推移すると考えられる。こうした中、年の後半に建築や設備投資で鋼材需要に復調の動きが出てくれば、鉄スクラップ相場も1万5000～2万円どころに回復することが考えられそうだ。

(当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本ELVリサイクル機構は一切の責任を負いません。)

# 行事予定

## 1月の主な予定

1月5日(火)

- 自動車工業団体新春賀詞交歓会

1月8日(金)

主催:経済産業省

- 第1回 3Rの推進・質の向上に向けた検討会
- 日本鉄リサイクル工業会賀詞交歓会

1月16日(土)

- 九州ブロック会議

1月19日(火)

- JIS開発事業 第5回 原案作成WG
- 第10回 広報部会

1月21日(木)

- 第6回 リサイクル技術部会

1月25日(月)

- 第5回 三役会
- 第1回 業界関係団体交流会

1月26日(火)

- 日本自動車リサイクル部品協議会定時社員総会
- 第2回 情報発信の在り方等に関する検討会

1月27日(水)

主催:自動車リサイクル促進センター

- BEST新年合同祝賀会



## お知らせ

### ◆会員数(2015年12月末日時点)

総数 597社 / 会員 569社、賛助会員 28社

### ◆事務局からのお願い

事務局より、会員名簿確認のお願いです。  
ELV機構会員の皆様は、ご自分の所属されている団体の会員名簿の掲載情報(会社名・代表者名・住所など)に誤りがないか、ご確認くださいますようお願いいたします。

#### 会員名簿



<http://www.elv.or.jp/0-0-21.html>

掲載情報に誤りがあった場合は、指定の変更届に変更内容をご記入のうえ、ELV機構事務局までご送付ください。

#### 変更届



<http://www.elv.or.jp/0-0-548.html>

お忙しいところお手数をおかけして恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。▼今年の広報部会の企画第一弾は、ELV機構ホームページのリニューアルです。長年に渡り慣れ親しんだホームページですが、ここでデザインを一新、さらにSNSを導入する運びとなりました。機構と会員、また、会員同士のコミュニケーションをより活発にすることを目的に、時流に乗り、フェイスブック導入を決めました。リリースは3月下旬を予定しております。ご期待ください。▼さて、ニュースレターでは「我々の未来をどう創るか」といった難解なテーマに挑戦します。次世代自動車をはじめとする新素材、新技術によって激変する自動車業界の中で、「我々のビジネスチャンスはどこにあるのか?」、「どこを目指すべきなのか?」、業界の有識者の皆さんとの対談、インタビューを交え、自動車リサイクル業界の未来を模索してみようという企画です。この企画は5月頃より紙面に順次展開して行きます。こちらもご期待ください。▼本年も広報部会一丸となり有益な情報提供、魅力溢れる紙面作りを行ってゆく所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

(広報部会 部会長 永田 則男)